

9. 

プリントアウトした請求票は、所蔵部署階のカウンターにお持ちください

2010年12月30日 14:18:25

2010年12月30日 14:18:25

入館証番号:

入館証番号:

Call Slip

<請求票>

Call Slip

3022
87
30

<請求票> (控)

資料名 : 支那の真相

巻次 :

著者名 : 長野朗 // 著

出版者 : 千倉書房 頁数 : 296p

大きさ : 19cm 出版年 : 1930

書名
資料名 : 支那の真相
巻次 :
著者名 : 長野朗 // 著
出版者 : 千倉書房
出版年 : 1930
大きさ : 19cm
頁数 : 296p

切り取り

所蔵館 : 中央  
所蔵部署 : 1階資料お渡し・返却カウンター

所蔵館 : 中央  
所蔵部署 : 1階資料お渡し・返却カウンター  
配置場所 : 1/66B 中)B1書庫B  
資料ID : 1121006388

配置場所 : 1/66B 中)B1書庫B  
資料ID : 1121006388

請求記号
3022
87
30

一社人自東新	力	事
↓	請求	報告
一社人自東新		
MB1 マイロ B1 7ル7アベ'ット 原紙 縮刷		
MB2 マイロ B2 洋 中 朝		
行 1F B1 B2		
多 兎 青 1F B1 B2		

頁 1~4

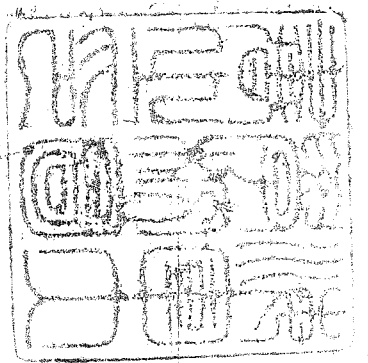
図説 1~9

1~54

75~79

86~87

88



支那時代来る！

それは決して誇言ではない。世界の重點は大西洋から太平洋に移り、太平洋

問題の重點は支那にあるのだ。今や全世界の視線は支那に注がれ、其一擧一動

に甚大な注意を拂つて居る。

四千年の歴史と四億の大衆と無盡蔵の富源を擁して居る支那の動きは、全世界

界に大なる波動を興へずには置かない。政治的に支那の革命が如何なる方向を

取るか、又經濟的に支那に大資本主義國が出現するか否かは、世界の將來の運

命を支配するものであり、又現在四億の大衆が八億にも發展するならば、世界

人類史の一大革命である。殊に隣國である日本は其最も大なる波動を受くるに

目 序

目 序

拘らず、從來吾人は餘りに支那に無關心であつた。最も重大な關係ある支那を疎外して歐米に親しみ過ぎた。そして支那を謎の國、不可解の國として放つて置いた。

然し、支那の動きが一つ一つ日本の政治から國民の生活までも動かすに至つて、最早一刻も等閑視することは出来なくなつた。

支那を輕視——或は之れを對岸の火災視するのは徳川鎖國時代の思想だ。現代人にとつては支那を知ることが常識であり義務でもあるのだ。支那は謎の國でもなく不可解の國でもない。恰も海潮の如く、表面波瀾重疊するも、大勢は力強く確實に退轉なく一定の方向に進んで居る。表面の千變萬化を見て眩惑さるゝ勿れ、退轉なき大潮の動きは四千年來一定の歩みを續けてゐる。

國民革命や共產革命は支那の大きな動きの前には一波浪だ。この大きな流れ

を傳へるために本書を書いた。

本書は巨象の體を各方面から描いて見て大體の形を想像して貰ひたいためである。それも全國民に對し支那の眞相を傳へたいために、理窟抜きに單刀直入、赤裸々な支那の正體を現はすことに努めた。支那は國際環境によつて變つて居るが、其本體は規則正しく四千年來の型を歩いて居るのだ。支那が同種同文なるが故に、日本人は却て支那を簡單に見て誤解するが、四千年の長きと、あれだけの大きさを有つて居る支那には特殊の文化と民性と政治と經濟、外交の色影があるのだ。それを知らなければ支那の正體は擧げない。

本書では是等の各方面に亘つて其内面を暴露描出するに努めた。觀察の不十分は著者の不敏謙識の致す所、たゞ我が同胞の注意を支那に向けるための一投石ともなれば幸甚である。

自序  
昭和五年五月二十四日

著者識す

四

目次

緒言.....1

    ◇國民性ばかりして生る.....1

政治篇.....3

    ◇妥協的な國民.....3

    ◇凡てを職業化する.....3

    ◇強い同化力.....九

    ◇虚偽と信.....二

    ◇多面的性格.....三

    ◇複雑性.....六

目次

◆實利主義……………一六

◆戦はずして勝つ……………三三

◆利己主義……………三三

◆形式の國……………六六

◆因果應報……………三三

◆出世と金儲け……………三三

◆帝王樂業……………三三

◆親分乾分……………三三

◆階級の流動性……………三三

◆謀求と中飽……………三三

◆弱點の利用に巧……………三三

◆洞ヶ峠の名人……………三三

◆土匪討伐……………三三

目次

◆老人國……………三三

◆外交篇……………三三

◆火元より遠方に……………三三

◆宣傳の天才……………三三

◆隨を得て蜀を望む……………三三

◆辭令の民……………三三

◆支那人の借金術……………三三

◆支那の裁判……………三三

◆同郷觀念と排他心……………三三

◆門戸閉鎖と秘密結社……………三三

◆經濟篇……………三三

目 次

五

◇ 悠 長 性 ..... 三三

◇ 天 命 論 者 ..... 三五

◇ 迷 信 ..... 三七

◇ 支那人の義侠心 ..... 三五

◇ 支那人の挨拶 ..... 三五

◇ 南方人と北方人 ..... 三三

◇ 熱 情 的 ..... 四四

◇ 面 子 ..... 四四

◇ 群 集 ..... 四四

◇ 專 制 の 威 力 ..... 四四

◇ 謠 言 ..... 四五

社 會 篇 ..... 三三

目 次

四

◇ 經濟心の發達 ..... 六〇

◇ 健實な發展振り ..... 六〇

◇ 安價な生活 ..... 六〇

◇ 地を富んで進む ..... 六〇

◇ 應用力と手先 ..... 六〇

◇ 數の觀念 ..... 六〇

◇ 時より金 ..... 六〇

◇ 勞働卑下 ..... 六〇

◇ 勞働に伴ふ報酬 ..... 六〇

◇ 活きる力 ..... 六〇

◇ 利害結合に敏 ..... 六〇

◇ 安 と 均 ..... 六〇

◇ 公法より私法 ..... 六〇

第二章 民族主義	七
第一節 民族主義の意義	一七
第二節 支那を壓迫する力	一五

三 民主主義 (孫文著)	一七
--------------	----

**附 録**

◇ 乞食	一四
◇ 中間の無い國	一六
◇ 滅び行く滿人	一六
◇ 二千萬の回教徒	一五
◇ 形骸だけの宗教	一四
◇ 社稷觀念	一五

◇ 賭博心	一四
◇ 享樂的	一六
◇ 不潔で衛生家	一五
◇ 血縁の結合力	一三
◇ 支那料理	一六
◇ 早老の民	一六
◇ 權謀に長ず	一五
◇ 心中と醉拂ひのない國	一五
◇ 男尊女卑	一五
◇ 女奴隸	一五
◇ 私娼の多い國	一六
◇ 支那の女	一七
◇ 支那の兵隊さん	一六

目

次

目次

九

三民主義に就て.....三九

---

第二節 民生主義の實行法.....三九

第三節 食糧問題.....四六

第四節 衣服問題.....五二

第三章 民生主義

第一節 民生主義と社會主義.....三五

第一節 民權主義の採用.....三九

第二節 民權と自由.....四四

第三節 民權と平等.....五一

第四節 支那と聯省自治.....五一

第五節 民權と權能分離.....五五

第六節 政權と治權の新組織.....五五

第二章 民權主義

第三節 民族思想の滅亡.....三四

第四節 民族自決の聲.....三三

第五節 民族主義恢復の手段.....三六

第六節 民族振興と道徳恢復.....三五

八

目

次



國民性はかくして生まる

人性もと相近じて、人間の性質は元來似たものであるが、それが今日のやうに各國民の性質が異つて居るのは長い間異つた環境に育つて來たからである。國民性を造り上げる最大の要素は政治と氣候風土食物等の關係である。長い間壓政を受けて來た支那の國民は甚だ念の入つた嘘付きの習慣が付いた。嘘は弱者の武器で、政治が悪い證據である。家の中でも親爺が喧しいと嬭や子供が嘘付きになる。又茫々たる大陸は人民を宿命論者に仕上げ、長いものには捲かれて式にした。南北による氣候風土の差異は南北人の思想性質の上に著しき變化を興へ、それが支那不統一の一因をなして居る。支那人に肉食の習慣が續いて來たことも支那人の性質に影響を興へた。かうして支那四千年の歴史と支那の國土が今日の支那人を生んだ。この支那の國民性も環境

## 支那の真相

二  
が變つて來れば少しづつ變つて行くだらうが、一朝一夕に變るものでなく、却て支那の革命の方が國民性により變化させられて居る。支那の政治も外交も經濟も社會も皆支那の國民性によつて支那的色彩を濃厚に有つて居る。支那人を知らずして支那を論ずることは、繪を見て食物の味を云々すると同じである。そこで以下各方面から支那人なるものを觀察して、それが支那の政治、外交、經濟、社會に如何なる影響を與へて居るかを書いて見たいと思ふ。

## 變協的な國民

支那の時局を眺めて居ると、面白いやうに變つて行く。國民革命軍が鐘大鼓入りで廣東から北の途に上つたかと思ふと、僅か二年の間に日本の三十倍もあるやうな支那の大國の北の端までも青天白日旗が翻つて居る。これを見た歐米や日本の觀察はすつかり感心して、支那が昨日までと全く異つたものになつたと思ふた所が、飽く／＼見るとさうでもなかつた。又或る人は南京や上海が一夜の中に青天白日旗に變つたため、これを見ても如何に人民が國民革命を歓迎して居るか分ると云つたが、北京と天津の間に住んで居る支那人等は本藩から五種位の旗は用意して居る。古い所は清朝の黃龍旗から民國の五色旗、國民革命の青天白日旗、それに日英米の旗と、そこで必要があればどの旗でも早速出す。旗で御用が務まるなら笑ふことだと考へて居るだらう。

## 政治篇

丁度風が草原を直るやうなもので、風が吹いて居る時には草は一齊に風の吹く方に靡いて居るが、風が止れば元の通りに起き上る。革命も之れと同じで、國民革命が起れば昨日までの軍閥共が、我れも我れも青天白日旗をかへ三民主義の念佛を唱へて居るが、颯風一過した跡は依然たる軍閥の勢力争ひが再演される。民國革命の時にも、武漢に革命旗一度翻つて僅か三ヶ月にして獨立を宣言するもの十六省、又大正十二年頃湖南に聯省自治が起つて僅か一年の間に、北支那の數省を除く外は聯省制の採用に着手した。これは支那人の妥協性に基くもので、國民は抗しないでこれを通り越させた方が宜いと云ふことを、長い間の經驗から學び得たので、國民が不眞面目になつて居ることを現はす。勞働運動にしても同じで、共產黨の勢いが強いと全國の勞働組合が隣り間に共產系の手に歸するが、今度反共產運動が起ると數日にして全國の勞働組合は共產黨の手を離れて國民黨の手に移ると云ふ有様である。可笑しいのは共產系の勞働組合の中には資本家の御用勞働組合が濟して混在して居る。看板や旗幟は彼等にはどうでも宜いのだ。然し中味の問題になると驟然起つて反對する。軍閥でも旗幟だけは變へるが、それは平清盛が鎧の上から法衣を着たやうなものであるから、軍閥の軍隊を取り上げようとするれば猛烈地金を現して

嚙み付いて来る。凡ては上つ皮だけのことで中味は變つて居ないので仕末が悪い。上皮だけで濟ませて中味に入り込ませない所に彼等の狡猾さがある。支那の革命も薄墨で紙を塗るやうに「發展」も練り返さねばならぬ。根本的の破壊を行ひ得ない所に支那革命の不徹底性がある。支那人の變通性は實に其妙奥に達して居る。軍閥の罪惡が民衆の憎む所となつて、督軍廢止の聲が全國に揚ると、彼等は早速督軍を廢して督辦となり、國民革命軍が起ると軍長に變り省政府主席となつた。又官僚は民國になつて議員となり、今度國民黨員と變形し共產黨員ともなつた。かうした外面の保護色が巧みである。それを何の遮断なく手際よくやつてのける。

### 凡てを職業化する

貧に處するは易し富に處するは難しと云ふが、支那の若い革命家は、如何にも悲憤慷慨天晴れ志士であるけれども、一度政權にありつければ忽ち墮落する。これは人間一般に通有な缺點であらうが、支那人はそれが特に甚だしい。革命軍が武漢に入つて三ヶ月の後、私は武漢に見に行つたが、もう其頃は革命軍の首領株がスタイルの好い洋服を造り、美人を同乗させて自動車に乗

り廻したり、金儲けをしたりして居たから、私は之れを見て今度の革命も駄目だと思つたが、果して上海まで來ると、蔣介石を始め上海の商人から盛んに金を撥つ拂ひ、外國銀行に金を預けたり別荘を建てたりした。蔣介石の如きは私財數千萬元に達すと云はれて居る。然し支那人は別に之れを問題にせず、蔣介石の地位になれば、それ位の金を儲けるのは當然だと思つて居る。此の有様を見て若し連中が憤慨して更に新しい革命を計畫して居るが、彼等も其位置に就けば矢張り同じ事をやるだらう。國民革命が盛んになつたのも、一つは失業知識階級を巧く利用したからである。

昔は支那では知識階級の失業者を造ることは非常に嫌つたため、學校を設けて學生を養成することは斷り行はれず、養の始皇帝の如きは却て根本的に書を燒き燬を先にした。これは最も徹底した方法であつた。清朝は學生を多く學校に集めることを避け、各々家庭におつて勉強させ、試験の時だけ集めた。これは一緒に集めて置けば不安の因だからである。試験も時勢に遠ざかつた空疎なものをやらせ、試験に合格したものは四庫全書とか康熙字典とか一冊かゝつてやれないやうな仕事を押し付けて、學者を世間から隔離して置いたので、三百年近くの太本を保つた。

然るに民國になつてから、新しい大學や専門學校が盛らも出來たが、其多くは設備の單簡な政法法律の學校であつた。所が卒業して見ても産業の發達して居ない支那では實業界方面には就職口は無く、官軍になるには情實纏綿して中々望みがない所から、學生の気分が著しく變つて大正八年頃から排日をやつたり勞働運動に手を着けたりして居た所に、恰もよし國民革命が起つたので、争つて國民黨や共產黨に加入した體である。北京には北伐の初期約三千人の黨員があつたが、其中で二千七八百人は學生であつた。とにかく國民黨に加入すれば何かの委員になりバシに有り付けると考へたからである。所が北伐が成功して見ると舊官僚の國民黨に變形した連中が好い位置を占め甘い汁を吸つて居るため、不平も起れば新しい革命も金でたくはなるし、それに政權に有り付けばすぐ墮落するから、次ぎくに新鮮な分子で取り換へる必要があり、第一第二第三三、國民革命、更に次の革命と幾度も革命を繰返さねばならぬ。

凡て何んでも商賣化する支那の國民性は、富業をメチャクにする。租税でも人民から取立て中央政府に行くまでに大部分は消えて失くなり、鹽の專賣が、生産費百斤五十錢、租税二圓七八十錢を加へ四圓位で賣れるのが、湖南あたりでは三十圓になり、鹽い時には百圓にもなつ

た。鐵道でも數億の收入があるべき筈だが、一番多い時で漸く一億を少し越した位で、大部が鐵道従業員の懐を肥して居る。それで國民黨が云ふやうな、民生主義に基づく主要産業の官營でもやらうものなら、下らぬ産業管理委員會を發らでも造つて、散々に甘い汁を搾り上げ、産業は無茶苦茶にし、最も弊害の多い官債資本主義が出来上らうたらう。

支那人のこの性質は政治だけでなく、勞働運動でも排日でも皆一つの職業になる。勞働賃銀を上げた分は組合で取り上げ指導者の私腹を肥すため、勞働者は何の得る所もなく、物價が高くなつただけ生活は苦しくなる。排日でも始めは學生等は眞面目でやつたかも知れないが、其中に漸く職業化し、示威運動の行列價が一日五十錢、演説が一回上等一圓、下等五十錢、女學生は效果が多いと云ふので一圓、何を喋つて居るかと思ふと、黄色い聲を張り上げて森永のミルクキヤラメルには毒が入つて居るから買ふなと云ふやうなことを云つて居る。所が上前をはねる首領株の間に金の分配で内訌喧嘩を始めたが、中には排日の學生首領にして金と名譽と一緒を選んで動した女學生の美人とを待ち得た果報者も居たので、仲々排日も止められなくなつた。商人の方にも職業排日家が現はれ、國貨と銃打つた粗製濫造品を造り、日貨排斥をやつては其間に自己の

強い同化力

製品を賣込んだりした。所が最近の排日では、それが一層整然たる職業化し、排日により衣食するものも全國に數萬を算し、救國基金なるものを日本品に課税して之れを生活の資に充て、其他罰金とか、抽の下とか種々の収入もあつたが、支那一流の方法としては、上海で日本商人の綿線布をシタで運ぶのを押へる。日本側では領事館の手を經て抗議を申込み、それで愚圖ついで一週間が十日して返すことになる。其時に排日團から支那の倉庫に入れて置いた庫入れ庫出し庫敷料を請求する、癪に觸るが排日はなば受取れぬので排日。其料金が一捆一元位のを三元位取る。これで差額二元儲かり、數十捆あれば數人のものが一ヶ月位食つて行けるので、これを度々やる。その方法の深刻は國民性に基づく、革命にしても排日でも、間には眞面目なものも居るが、大勢が之れでは仕方がない。それに惡の方の同化力が強いから大勢應じて如何ともし難い。

今上海から南京邊りを歩いて見れば、農村の女は別として、若い女で斷髪して居ないのは見當らない。三十恰好の女までが耳に耳飾りを付け、足に舊時代の纏足をしながら、頭は斷髪と云ふ

珍蘭があるから面白い。断髪は日本の方が早かつたが、日本にはさう多くないのに、支那はどうかして急速に断髪が行き直つたかと思ふに、そこが國民性の相違である。支那では数人の者が先づ断髪すると、それが自分達の友達に勸める。始めは親が嫌ふとか、評婚の男が不賛成だとか、種種理窟を付けて聽入れない。すると毎日押しかけて行つて勸め、どうしても聽かなければ變て居る間に鐵で切つてしまふ。かうしてだん／＼流行が擴がる。彼等のかうした方面に對する同化力は非常に強く、鐵道従業員でも皆なるになつて惡いことをするが、其仲間に加はらないものは標體で縛り上げて倒に吊したりするので、墮落するか飛出すかの外はない。長い間外國で教育を受けて支那に歸つた連中は、かゝる習慣を非常に嫌ふが、同化しなければ何時までも下積になつて出世しないし、其地位までも低くなるので進むか退く外ない。貨幣流通の方則と同じやうに、悪人が善人を驅逐する方則が最も嚴格敏銳に行はれて居る。政治の方でも同じである。革命の志士が一度政權の渦中に飛び込むと、そこには數千年來傳統的な官僚階級が居て忽ち同化作用を行ふ。

國民黨でも共產黨でもその同化作用を受けて忽ち墮落する。かうした國民性であるから、支那には二つの全く隔離した型の人物が居る。一つは惡に同化された下等の集團で、一つは同化されず世間から超然として高踏した隱士であつて、中間的のものはない。倭夷、叔齊や竹林の七賢たやうなのが墮落した官僚階級に對照して存在して居るのが支那である。

### 虚偽と信

支那人の持つ最も惡い性格の一つは平氣で虚言を云ふことである。虚言は歴史の結果であつて強かに對する弱者の武器である。虚言は始めは方便として云つて居たのが後には習慣になり、別に惡いことゝ考へずに、平氣で虚言を云ふまでに墮落して居る。國民の價値を測定するには、國民が虚言を云ふ程度で判断し得る。昔から虚言を云ふ國民は減びると云ふが、支那の革命が中成功しないのも、やるべきことが凡て虚偽だからである。

この頃日本人も大分墮落して虚言を云ふものが殖えたが、昔から虚言を非常に排斥して來た國民だけに、虚のつき方が下手でもあるし、良心に餘あるから露に現はれてすぐに化の皮が剥けるが、支那人の嘘は一時の方便でなく、權めて計画的に二重三重の嘘をついて居るから、日本人

等にはそれが嘘かどうが判別が付かない。支那の女に至つては男より一層弱いだけに云ふことが殆んど嘘ばかりである。この念入りの嘘を平氣で云ふし、それが嘘だと云ふことが暴露しても平氣で済して居る。結果を遙へること等は尋常茶飯事で、後で會つても知らぬ顔して居る。相手は巧く証まされるれば大に得意になる位のものである。自分で嘘を云ふから相手も嘘を云ふものと決めて居るから中々人を信じない。従つて支那人は猜疑心が強い。人名を信じないため比較的信用の出来る血縁のものや同郷人で周囲を堅めようとする。政治界にも實業界にも血縁相引くことが流行するのは其たためである。かうして嘘を言ふ國民だけに、嘘を云はない「信」を守り人を非常に尊敬し、信を尊重するのである。支那人は滅多に人を信用しない代りに、一度信用すれば何でも任せ、數十年間々々辛く苦して貯めた金でも其使途を任せるし、礦業、張鐵のやうに一片の口舌で飽く諸侯を動かして六國の宰相の印綬を授ける。かうしたことは日本人には出来得ない體である。日本人は人を軽く信するが、又支那人見たやうに思ひ切つて信用も出来ず、充分人に任せ切らないでお節介をするから仕事は中々巧く行かぬ。

支那人は之に反して始めは中々信用しないが、一度信すれば凡てを任せ懸はない。日本人の

多面的性格

顧問でも、學識や才能は支那人の方では大して問題にせず、個人に對する信用で行くから、假令出来る人でも信用の無い人は派遣しても支那人の方で相手にしない。支那人の猜疑心の深い結果、何でも物を表面から見ないで裏から見る。あれがかう云つたから多分かう考へて居るだらうと裏を考へて来る。それで日本人が支那人に對する時に、掛け引で相手になつたら小學生と大學生見たやうで、とても太刀打は出来ないが、日本人の性格に従つて、掛け引なしに短刀直入一直線に突込んで行けば、却つて相手が面喰つて交渉は巧く行く、この日本式の行き方をやらす、下手な策謀を廻らすから從來の對支外交は凡て失敗に終つて居る。支那人が戰爭をやるにしても、正式の戦法は中々用ひないで、敵をメチンに掛けるやうな權道計り用ひる。これも確かに支那國民性の現はれである。

日本人は一面的の國民だが支那人は多面的であつて、日本人のやうに簡單には行かない。日本人が支那人と交際しても、支那人は自分の正體は深く包み藏して中々外には出さず、假面を被つ

て居るから、其の人體がどんなものかは容易に捕捉することは出来ない。日本人は赤裸々に其體を露出した所に價値があり、あの人はサツパリして好い人だと讃めるが、支那人の方は得態の知れない男でないと偉くなれない。支那では簡單明瞭な人を「好人」と云ふが、これは好い人だと云ふ意味もあるが、お人好しと云つたやうな輕麗の意も含まれて居る。之に反した人物は「不好人」と云ふが、惡人と云ふ意よりも中々喰へない人だと云ふ若干の敬意も含まれて居る。馮玉祥や閻錫山の如きは之の不好人の方であつて、中にも馮玉祥の如き其典型的人物のものだらう。嘗てクリスマン。ゼネラルの名を得て外國人に信用が厚かつた彼が、間もなく共產主義のロシアに行つて共產化したやうに見え、次に三民主義の信徒と成り濟し、或は支那古代思想の諷刺者のやうにも見える。

然し此等は凡て嘘で彼れの正體は別にあるかも知れない。王正廷の如き外交部長として不平等條約の接應は等と列國相手に談阿を切つて居るが、裏の方では抜け目なく金儲けをやり、日本の資本家で彼れに五萬十萬の金を捲き上げられたものは決して少くない。彼が北京に居た頃には、舊は國民黨の連中と連絡して打倒軍閥の氣勢を揚げ、各方は投派、夜は奉天派の門を濟ぐると云

ふ有様で、一日三役位務めたもので、彼れの妹を張學良の妾に出したのも當時北京に威張つて居た張作霖の御機嫌を取るためであつた。かうして同じ人間が二人三人の全く別人の如き行動を取る二重三重の人格を有つて居るから、國民黨と共產黨が一緒になつた際にも、共產黨は其黨存續し、共產黨員は個人として國民黨に加へし、國民革命のために盡くすと云ふのだが、三民主義と共產主義は全然別物なのに、一人のものが同時に二つの主義を奉じ、舊は國民黨で三民主義のため努力し、夜は共產黨の會議に列席して共產主義革命に力を盡すと云ふのだから面白い。日本でならば民政黨員と黨農黨員とを兼ねて居るやうなものだが、それを本氣でやつて居る所が支那人である。支那人の此の多面的な性格は、支那人に非常な變通性を與へ、時勢の變化に應じて軍閥や官僚がどしどし新しい看板に塗りに塗りに換へてモザイク化して行く。そんな所は日本人のやうに窮乏ではない。

言論に對しても同じやうな傾向がある。其所々で都合の好いやうな點を揚げて歩く。自分の喋つたことには勿論責任も有たないし、こゝで喋つたことゝ、あそこをこゝで話したことゝが全然矛盾して居ようと、そんなことはお構ひなしであるし、本人も何處で何を云つたか記憶しても居ないだ



らうし、凡ては其場限りである。それを日本人等は彼奴はあの時かう云つた怪しからぬ奴だ等と怒つて見ても、相手はそんなことも云つたかなあ位の調子だから問題にならない。それは支那の國民性で寧ろ問題にするだけが野蠻だらう。

外交の事でも大正十四年の特別關稅會議の時に、王正廷が日本が關稅自主を許したら互惠條約を結ぶと確言したと記憶の好い外務省の役人が覺えて居て居て今度の日支關稅協定で持出したにしては、相手は其時日本を釣る手段として出鱈目を云つただから、とうの言忘れてしまつて問題にしない。支那の多面的性格はかうして種々な方面に種々な影響を有つて来る。

複 雜 性

この頃日本にも麻雀が大流行し出した。日本に麻雀が流行するのは、日本人の簡明直截な國民性に變化が起り、日本人の性格が支那人に似て来たことを示して居る。麻雀を見たやうな複雑な遊藝を考へ出す國民は、餘程複雑な性格の持主でなければならぬ。支那には麻雀以上に複雑な遊藝があるさうで、それは知識階級の獨占だが、日本人にはとても難しくて出来ないうさうである。

支那人の頭は策謀と云ふ方面では日本人より餘程進んで居る。戰國策や三國志を見ても分るやうに、支那は正に權謀數の國である。所謂策士と稱する連中が縦横に謀を廻らす所はとも日本策士の比でなく、又日本人の性格として策謀を弄するものを嫌ひ之を排撃するが、支那ではこれが珍重するゝ所に兩者の著しき相違がある。この權謀好きは國民性だから、支那の時局は復雜混亂として日本人には中々分らないし、又實際極めて微妙に動いて行く。例へば反蔣運動にしても、始め蔣と馮と河南で決戦をやつた時に、閻が態度を明にして先づ馮と連合して蔣を叩き、其後の問題はそれからやれば宜さうに思はれるが、それは日本人の單簡な考へ方であつて、支那人流に考ふるれば、馮と一緒に蔣を叩けば馮の勢力が強くなり、下手にすると蔣と馮と結んで閻を倒すかも知れないので、一方では馮に武器糧食を送つて蔣と闘はせ、一方では蔣から中立保持の抱込み料を取り副司令に就任し、双方を疲らして行けば自然に自己の地位が増大するので、閻が取つた方策は先の先まで見越したものであつた。其ため双方から恨まれたが、これはお互に閻の位置に居ればやることだから仕方がない。とにかく支那人の考へ方は甚だ複雑だが、かうした複雑な性格は何處から出て来たかと云ふに、國民性が虚偽であり多面的であるために、其結果自

支那の真相

然獲難になり、單獨では世の中が渡れないから、自活上さうせざるを得ないし、又支那のやうに本妻の外に妾が數人も居て此等の各々に子供があり、互に暗闘を繰返して居るので、自然子供

の時から權謀駆け引きを習ふことになる。

事實支那の時局を見て居ると、樂屋裏では築士連が年中必死になつて種々の策略を廻らし、甲と乙とを結んで丙に當らしめんとするもの、或は乙と丙とを結んで甲を倒さんと企つるもの、或は甲と丙とを運合して乙を抑へんとするものあり、之等の策謀が錯雜糾紛し、其大部は表面に現はれずに終り、一部は現はれて或は失敗し或は成功するが、之の樂屋裏の消息が時々新聞に傳はるので、來る消息が皆反對矛盾して、どれが眞實か分らなくなる。其凡ては事實企てられて居るが、中には全く成功の見込みのないものもあり、或は充分實現の可能性を備へたものもあるから、報道の任に當るものはそこを能く判斷しなければならぬ。

實利主義

日本でも花より團子と云ふ言葉があるが、支那人はこの方でも徹底した性格を有つて居る。日

本人は支那の國民黨や中國共產黨を三民主義や共產主義と結び付けて考へるが、支那人はさうした窮乏な考へは有たない。主義は主義、黨は黨で、主義の善悪よりもどの黨に入つたが有利であるか、自己の利害打算から勘出して行くので、云はゞ主義等はどうでも宜い。虚偽不眞面目に出來て居る彼等には眞の主義者は殆んど存在しないと云つても宜い。三民主義にしても却て日本人の中に眞面目な支持者がある位である。又共產主義にしても、日本には眞剣な共產主義の信者があ

るが支那にはそれが無い。

従つて支那で國民黨や中國共產黨が天下を取ると云ふことゝ、三民主義や共產主義が行はると云ふことは別物である。支那人のこの考へを眞書きする實例は幾らもある。武漢でも共產黨はボロチンの懐工合ばかり廻つて居たし、又學生は國民黨を共產黨員の養成所見たやうに心得、國民黨内で盛んに活動して居ると共產黨員に引上げられ、月に四五十元の學費を供せらるゝので、共產黨員になることを悟も特待生になつたやうに心得て居る。奉天派が密で北京ロシヤ大使館を襲つて共產黨員を捕縛した時に、其中に多數の西山派の連中が混入して居た。西山派は國民黨の最右翼で、始めから共產黨員を國民黨に加ふることに反對して分離した連中で、西山派

支那の真相

の首領は打倒共産黨を叫んで居るのに、下の方では共産黨と一緒に仕事をやつて居ると云ふ有様である。これなどは日本人には考へられないことで、ロシアの連中も支那人には散々操られたらしく、役者はロシア人より支那人の方が一枚上手である。米國等も數千萬元の金を費ひ、數千人の宣教師を送り、數千の教會や學校を支那各地に設け、堂々たる病院を造つて米支親善をやつて見たが、反帝國主義運動一度起つて此等の勢力が何等の價值を齎らさなかつたことが分つた。或る米宣教師は數十年間歐米人の對支宣教師の結果は遂に一人の眞の信者を支那人の間に得られなかつたと云つて居る。これを我が天草の例に於ける殉教師の多かつたのに較べて大なる相違がある。支那の革命が失敗に終る大きな原因は、かうした眞に主義のため圖ふ者が居ないからである。

支那人は實力を重んずるから、條約や契約のやうに紙に書いたもの等は一枚の反古紙位にしかり思つて居ない。そこで日本と無電の契約を結んで三十年間の獨占権を興へ、間もなく米國と同じ契約を結んで十年間の權利を本氣で興へたり、又日本の滿蒙四邊道の權利線にさつと自分で鐵道を敷設して本氣で居る。これが何か實物があれば決して之を無視しないが、何も無ければ勝手

にやる。其代りに假令條約に無くとも實際そこに物があれば之を尊重する。例へば朝鮮人が百萬入滿洲に住んで居ると云ふ事實があれば、それが條約によつて認められて居なくても、事實の上になつて誑心を遣めて行くのが支那人である。然るに日本の外交は紙の上の契約だけ取りたがつてそれに長い間引懸つて實際の仕事は何一つ出来ないといふことになる。支那に對しては花より権を取るべきで、紙の上の條約や契約は、日本では外交官の手帳にはなるかも知れないが、何んにもならなただけでなく、かうして表面で騒ぐから却つて實際の仕事は出来なくなる。支那では何時何をしたか分らないやうに黙つてやること、空騒ぎは大の笨物である。

支那人が實力を重んずる習慣は政局の上にも現はれて居る。平常何んとかかかき廻つても、實際事を決する場合には實力を有つたものがやるのだから、今の混亂の支那では必然兵力を擁する軍閥が申を利かし、政客は皆軍閥の門に伺候すること現状の通りである、そこで蔣介石にしても、國民政府の首席で云はゞ大總統見たやうなものだが、軍隊だけは決して自分の手から離さない。これを離せば忽ち權威を失ふからである。力が物を言ひ、凡てが事を決する支那では、實力の二字が最も大切である。

戦はずして勝つ

戦はずして勝つは策の上なるものなりと支那の兵法に云つてあるが、支那人は能く此の要領を呑み込んで居る。戦争の時にも自分の兵は損ぜないやうにして人の兵を叩き合せて潰潰れにすれば、戦後自分が一番威張れる體だから、各々の兵を戦はせようとして頭を捻る。安徽派が天下を取つて居た時には直隸派の軍隊だけ戦線に出して自派の軍隊は後に殘して置いたので、直隸派が癢に癢つて兵を戦線から歸して安徽派を打破つた。北伐の時も蔣とが各々相手の兵を奉天派にぶつ付けようとして苦心した。支那の軍隊では大に奮闘して敵を取り自分の兵も損したものは、戦後お前は兵隊を有たないからと云ふので免職される。これに反して戦争の時には成るだけ安全な所に居て働かず、戦争が終つてから敗兵の銃を分捕し、敵の敗残者を驅り集めて多くの軍隊を急造し、己れはこれだけ軍隊を有つて居ると云へば、忽ち師長は軍長になり、軍長は一躍して大軍閥になれる。そこで支那では苦戦奮闘して敵を取るやうな男は馬鹿で、日和見をやりに後には戰場泥棒をやつたのが勝になる。

人の権力で角力を取るとは支那人の最も得意とする所である。第三奉天直戦の時に、段祺瑞派は天津に居て反直各派を操り、一兵も有たず一錢を費さずして巧く段祺瑞を執政に擔ぎ出して戦果だけは收めた。かうした遠方は中々巧いもので、袁世凱から段祺瑞時代までは、盛んに外國から金を借りて戦争をして来たが、列國が支那の鐵道利権を欲しがつて居るのを見て、どしどし新鐵道利権を興へて前貸金を取つて賣つた。其中で一番騙されたのは間の抜けた日本であつた。鐵道利権契約書一枚で千萬圓にもなれば、こんなボロい儲けはないと思つたらう。とにかく最小の勢力で最大の効果を收むる經濟上の原則を各方面に最も宜く利用して居るのは支那人である。

利己主義

支那人の主なる性質の二つは其利己的なことであつて、この方面では徹底した性格を備へて居る。日本では「旅は道半れ世は情」とか、「情は人の爲ならず」等と云ふ諺があるが、支那では

人が殺されようが死なうが全く無關心である。私の友達が同文書院の旅行で洞庭湖を舟で行つて居る中に舟が覆つて溺れさうになつたが、近くを舟が幾りも通るが助けて呉れない。所が一人の男がボタツトから一元の銀貨をつかみ出して見せた所が、忽ち方々から舟が集つて助けて呉れたので、六人の命が一元で、一人當り十七錢計りになると話したことがある。私が或る時川邊りを通りかゝつたが、男が三人立つて居るので、何だと聞いて見ると此の河に子供が溺れて居ると云ふ。其河と云ふのが深さが大人の腹まで位じかない處である。それを誰れも助けようとしな。又河に溺れ死體が浮いて潮の加減で上つたり下つたり二三日もやつて居るのを見ることは決して珍らしくない。偶に死體を引上げる奇特なものが居るかと思へば、衣服だけ脱ぎ取つて體は又河に投げ込むと云ふ有様である。支那には兵亂や土匪等々で時々人民が避難することがあるが、そんな時には一家の主人が在り金を皆持つて、鞆や妻子にお構ひなしに逃げ出すと云ふ有様で、かかる混亂の際に國民性は最も好く現はるゝものである。支那人が金を大事にするのは一つは人情が利己的なためで、金が無ければ誰れも救けて呉れるものはなく、富意はもとより相手にしないし、野垂れ死する外ない。そこで子供を賣ると云ふことにもなる。殊に旅に出て金が無くなつた

場合には全く動きが取れないので、最愛の妻を賣り飛ばすやうなこともある。子供を賣るのは珍らしくはない。大體十圓位の相場である。支那人が金と命を同じ位に大事にするのは無理のないことである。

私がお天澤に居た頃、私の住んで居た住宅街に一人の支那人の妻が居て、旦那が來ない晩は町を流して歩くハヤシ子を呼込んで夜二時から三時頃まで騒ぐ、妻と云ふのが下つ端の女傭上りだから其處々しさは並大抵ぢやない。近所には日本人と支那人とが半々位住んで居るのだが、日本人は騒がしくて眠れないので、十二時過ぎになると方々の窓から顔を出して「喧しい」と怒鳴るが中止めない。

所が支那人の云ふことが振つて居る。自分の金で騒ぐのは勝手で、他から抗議を申込む資格は無いではないか」と。私は公共治安に就いて説いて聞かせたがどうしても分らない。根本的に考へ方が異つて居る。

支那の現状が腐敗して居ることは皆知つて居る、惡かつたら一つ骨折つて好くしたらどうかと云ふと、皆云ひ合せてやうに、僕等一人やつたつて仕方がないぢやないか、それより自分の事を考

へて居た方が宜いと云ふのである。

支那人はどんな悪い奴が居ても、自分の身に保はりのないことで人の恨を買ふやうなことはやらない。革命にしても軍閥の横暴にしても、自分の身に振りかよつて来た時に始めて之を拂ふ。云はゞ反射的行爲に過ぎない。不必要に新たに人と怨恨を結ぶと云ふことは支那人の最も嫌ふ所である。私が漢口に居た時に近所の貧民窟に火事があつたので行つた。丁度凸道になつた鐵道線路の下だから、この鐵道の堤防に上つて見ると、燃えて居る二三軒先の連中は、人の家が燃えて居るのだと云つた調子で、鐵道の土堤に腰掛けて煙草をスバ／＼吹かしながら見物して居る。所が家が皆お粗末なバラック式と来て居るから譯もなく燃え移つて自分の家に移ると哭き出すが、二三軒先の連中は又同じ態度を取つて居る。かうして誰れも火を消さうとしないため三百軒燃えたことがある。萬事は此の調子で、本來共有的に出来た日本人とは餘程異つて居る。勿論日本人も誤つた政治のため近年善しく利己的にはなつたが、支那人程には徹底して居ない。

共産黨が支那に生れたので、支那が共産化しはしないかと心配したものが方々にあつたが、支

那が共産黨の天下になることはあるかも知れないが、然し共産主義を實行することは出来さうに  
もない。恐らく支那人は世界中で最も共産主義に不適宜な國民だらう。古から歴史に傳はつて居  
る範圍内に於ては支那に共産主義は實行されて居ないし、一部これに似ることが股の田制に行は  
れたが、其の末期には人心が利己的となつて失敗し、それ以後は一部に計畫されたことはあつたが  
始めから成功しなかつた。支那の家族制度を見れば、共産が如何なる結果を來すか分かる。支那  
の大家族では一家の收入は擧げて家長の手に歸し、家長は又一家族を養ふ義務があるが、働く方  
はいくら働いても何人にもならないために働かなくなり、避んで居ても喰へるから皆働つて澤  
して遊ぶ結果は、支那の生産減少の一因をなして居ると、又一人出世するものが出来れば血縁者  
が皆集つて之に寄食して寄生活を營むし、これでは堪らないので血縁者を以て政權を堅めたり  
會社の重要な椅子を占めたりして共同して利を貪る。この頃も共産黨が湖南で土地革命をやつた  
が、全然主義としては失敗した。

同じ資本主義を否定するにしても、支那でもつと異つた方法を採らなければならない。

形式の國

支那には昔から文物が能く備はり、孔子の教を始め諸子百家の説があり、燦然たる四千年文化の華を誇つて居るが、支那の實質は今日見る通りである。支那では形式を整へることに甚だ重きを置くが、日本人の方は形はいつでも宜い。實際出来て居れば宜いぢやないかと云ふ行き方だから、古來日本には道と云ふものはなく、人々が道を行つて居たから還る必要もなかつた。

昔の日本の學者は道のある國は墮落した國だと云つたが、必ずしも眞惜みばかりでもない。南京政府の遺方を見ても分るが、盛んに各種の官制を發表したり、財政計畫、交通通信計畫、裁兵計畫、さては勞働法案等と矢繼早に出して居るので、國民政府が急速度で建設に向つて居るやうに見えるし、是等の計畫はいづれも支那の時弊に該當した立派なものだが殆んど實現性のないもので、たゞ遣つて並べて置くだけの政府委員の暇潰し仕事に外ならない。飾物だけに外観を立派にしようとするから益々非實際的になる。そんな馬鹿な遊戯に耽つて居る間に、一歩でも實際の建設に向つた方が宜いのだ。それをやらぬのが支那人だから、何時までも眞の建設は出来ぬ。

ない。

道徳にしても支那は孔子の國で形式は非常に喧しいが、内察は學だ、男女七歳にして席を同じうす」と云ふから、小學校でも男と女の學校は別で、先生の方は男生は男の先生、女生には女の先生と決つて居るし、男の居る部屋には女は遣入つて來ない。部屋の外から用を遣する。然らば支那に於ける男女關係は正しく行はれて居るかと思ふに決してさうではない。かなり御座なやうである。又親子の關係としても「父母在さば遠く遊ばず」と云ふやうな趣意から、子供が父母を置いて遠方に出るのは難しい問題であつて、子供が妻帯者であれば、自分だけ出て妻は父母の下に残し孝養を盡させる。何年外に居ても妻は残して置いて、時々休暇に歸する位だから、種々の弊害が其間に生ずる。子供は親に對して絕對服従を強ひられ、其極は親が子供を物置視して賣擲ふと云ふことになり、又貧民が安宿屋に泊つて居るのを見ると、夫婦だけ過ルの上に寝て子供は床の上で轉がして居ると云ふ有様だから、親子の情合ひが淡く、親不幸論が北京大學の新人の中から飛び出すことになる。孔子の教も支那には形骸だけ残つてそれが却つて災をなし、實質はその昔に消え失せ、日本の方に傳はつて居る有様である。又親や亭主が死んだ時に哭男を使つ

て特に哭かせて見たり、女房が亭主の墓の前に哭きに行き成るだけ大きな聲を出して居るが、一向悲しさに聞こえないし、悔みに行つた途中が、餘り親しくもないのに松の前に哭く等は如何にも人情を偽る虚偽の國民性を現はし、形式の弊を曝露して居る。支那を素通りした人が支那を見誤るのは、支那の表面だけ見て内面を知らないからである。

### 因果應報

支那には洪水が多いので、堤防工事と云ふのは昔から重要な仕事であつた。堤防が一度決壊すれば附近の町村は忽ち水に浸されて數萬、數十萬の民が飢に泣かなければならぬ。水が一週り引けば堤防の復舊工事が始まる。この堤防工事の役人になれば非常に儲かるが、その次に數十年して又堤防が破れることがあれば、それは必ず堤防工事の役人の村である。水が漲り切つた場合には、何處か少しでも弱點があればそこから破れる。そこで人民の方では工事でうんと不正な金を取つた役人の村の堤防を弱くして、因果應報を興へるので、數々の間に懲罰をやる所が如何にも支那式である。北伐中江西省の九江で銀行の紙幣が兌換停止をやり、價格が零に近くなつた

所が、住民が皆憤慨し、銀行支配人の息子を捕へて殺した。親爺に手を付けずに息子を殺す等は日本人の心理からは諒解出来なないが、支那人に云はすれば、親爺が悪いことをしたのだから子供が報いらるゝのは當然ぢやないかと云つて居る。  
 弱い人民は其復讐の仕方に於ても特殊の方法を考へて居る。

### 出世と金儲け

陞官發財の四字は支那の知識階級の頭に深く刻み込まれて抜き去ることの出来ないものである。陞官と云ふのは官階がたん／＼昇つて行つて出世することであり、發財と云ふのは金儲けすることである。  
 支那人が學問するのは官吏になるのが目的であつて、官吏になる目的は金儲けにあるのだから、お役人が悪いことをするのが當然である。支那ではお役人が在職中に官金を胡亂化さす習慣であるものを「兩袖清風」と云ふ。所がこの「清風」と云ふのが日本人見たやうに潔癖の清風ではななくて、餘り無暗に取りなないと云ふことである。私に友達と二人で北京に間借りて支那人のボイラー



支那の真相

を雇入れて自炊して居たことがある。するとボイが買物の金を胡麻化すので僅しからぬと云つて遣出す。新しい正直なのを雇入れる。暫くするとそれが又やる。又取換る。中には三四割から五割もやるのがある。結局幾度取換へても同じと云ふことになつた。其後私は天津に家を持つた時にはボイは換へなかつた。勿論其ボイも胡麻化しはしたが、それは一割程度のものであつた。

支那で清廉の士と云ふのは此のボイと同じで、一割かせいぐ一割以内の限度を越えないものを稱するのである。清朝時代にも此の限度を認め、之れを越えて胡麻化しをやるものは處分したが、當時は官吏の位置も安定して居たので、無理をして謙旨さるより、長い間に少つやつた方が算盤が好かつた。所が民國になつて變化が激しく、官吏の地位が一つも安定しないので、何時地位が覆るか知れず、短時日に撞つ拂はうとするから無理が出来、請求拳がだん／＼高くなつた。これは支那の混亂期には何時も附物で、請求拳が少くなり安定して來ると世の中も自然靜かになる。殊に最近是最も甚だしいやうである。

支那の革命家が日本に亡命して來ると、日本の志士はさぞ亡命して金が無く困つて居るだら

うと同情して、なげ無しの財布をばたいて幾何かの金を出し合せてやると、體一つの相手はちやんと少くて數十萬、多ければ數百萬位の金は有つて居る。彼等は取つた金の大部は自己のため保存し、一部分だけ費つて革命をやつて居るのだから、心配御無用である。支那のやうな官餘國に官吏が重視さるゝのは當然で、高官と金儲けとを結び付けて一體とした所に支那政治の弊根がある。陸軍總司令、國民政府の首席委員で、それに相當して少くとも四五千萬元の私財は有つて居ると云ふことだが、之の金は皆公金の横領や人民擄取の結晶であることは云ふまでもない。それ以下のものも相應に儲けて居ることは云ふまでもない。武官の方も督軍を三年すれば三千萬元は儲けたもので、王占元が湖北督軍を二年やつて三千萬元儲け、倪嗣冲は安徽督軍を五年やつて居たが其遺産八千萬元と云はれた。直系派の首領曹錕や奉天派の首領張作霖の私財は各々一億萬元に近かつた。武官に比較しては文官の私財は少く、大臣級で數百萬元が普通である。新しい革命家も、廉潔政府と稱する國民政府の連中も、陸軍發財の傳統から脱け出すことは出来なしい、今の學生の頭にも之の思想が根強く残つて居るから仕方がない。日本もこの頃こそ餘程墜落して來たが、官吏と云へば貧乏な

支那の眞相

の相場が決り、好景氣降代には官吏志願者は非常に少かつたが、支那では金持ちと云へば官吏に限られて居て、實業家に資産家は殆んどない。たゞ南洋華僑と稱する南洋出稼人の中にある位だらう。

従つて支那人の官僚崇拜はかなり強く、事業を起すにも官吏との關係がなくは出来ぬ。支那では嘗て官吏であつた人を呼ぶには、其人が今までに就いて居た最も高い官職を呼び、それも日本のやうに前代議士とか云ふのでなく、例へば天津に隱遁して居る前の大總統徐世昌に對しては、周圍の人も訪客も皆徐總統と理職と同じやうに呼ぶし、嘗て總長をやつた人には某總長と呼ぶのが例だから、支那人を訪問する時には、其人の以前の官職を知つて居なければならぬ。これは官職が中々物を云ふ證據である。陞官發財の四字が消えて失くなるまでは支那の革命も本筋に入らず、人民の苦勞は中々抜けない。

帝王業

周末戰國の世に一寸名は忘れたが、秦の王子が某國に入貢になつて居た時、商人の親子があつ

て、問答をやつたのがある。農業の利は幾何ぞ、曰く十倍、商賣の利は幾何ぞ、曰く十倍、帝王を立つる其利幾倍ぞ、曰く幾千萬倍なるを知らずと云つた調子で、商品を賣つて資本を遣り、人質の王子の番人に賄賂を送つて王子に近づき、又秦に行つて皇后に近づいて巧く焚き付け、終に其王子を呼び戻して後継者としたが、王子には其前に女をくつ付けて置いた。其女の生んだ子供が有名な秦の始皇帝で、六國を平けて天下を統一し商人は巧く天下の宰相になり外舅となつて始めの目的を選じた、之の親子の問答が實に能く支那の實況を語つて居るもので、一種の帝王業とも云へる。天下大に亂れて來れば、帝王業の邊りが物になりさうな人物を搜し出して之を真龍天子とか何んとか名づけて携き出し、御神輿にして天下を平定し、自分達が政權を握つて陞官發財をやる。そこで御神輿に成るのは誰れでも構はない。漢人でも蒙古人でも宜い。この帝王業は今日でも依然として形を變へて存在して居る。清朝が倒れると袁世凱が北洋軍閥に據られた。次で種々の野心家が出た。最近では國民黨は孫文を偶像化し、孫文の遺像と三民主義とを帝王の代りに擔ぎ廻して居る。この御神輿が都合悪くなれば次の御神輿と取り換へるだらう。

支那人の經歷には世々官吏を業とすと云ふのがあつた。これは下級官吏で實際租税の徴收等やる吏胥と云ふ連中になると、土地の事情に精通して居なければならぬので、官職を息手に譲つて世襲とし、それが一種の商賈と見られて居るから、世々官吏を業とすと云ふ文句が出て来る。この階級層は皇帝が變らうが革命があらうが中々動かない無風帯だから、支那の改革は一向に徹底しない。官吏が商賈になれば出来るだけ儲けようとするのは無理もないことである。

### 親分乾分

支那の政黨や軍隊にも未だ親分乾分式の結合が多量に残つて居る。例へば瀋陽の軍隊は皆瀋陽の乾分によつて指揮されて居るし、閩の軍隊も閩の乾分によつて指揮されて居る。各軍隊の内部分も亦同じである。この關係で結果が保たれて居る。

蔣の中央軍も其中心勢力をなすものは彼れの貞屬の乾分であつて、其他外様の灰色は甚だ當てにならぬ。

張宗昌等は自分の從卒や何かを旅團長や師團長にしたりしたので、彼れの軍隊は戦争には役

に立たなかつた。奉天軍では一時この親分乾分式の組織を改め、外國に倣つて新しい組織にしたがどうも巧く行かなかつたやうである。親分乾分式の軍隊だから職首もされなければ異動もなない。彼等は出世する道は自己の親分が大きいことだけである。例へば親分の軍隊が數倍になれば、師長は軍長になれりし、旅長は師長、團長に旅長と次第に繰上りに出世するから、彼等は時々昇進のため戦争して自派の地盤を擴大する必要がある。多くの場合戦争は乾分共のかうした空氣から醸成され、戦後は危険と知りつゝも地盤を擴大せざるを得なくなる。地盤が廣くなれば敵が多くなり戦線が廣くなり、軍費が多くなり、結局崩壊に至ることが分つて居てもどうも出来ない。

復讐をやつて失敗した張勳等は親分肌の典型で、毎朝早く起きて庭に懸掛けて居ると前を饅頭屋が通る。其饅頭を密買取つて門番の兵士に分けてやると云ふ風で、士卒の要望が厚く、兵卒は張勳を呼ぶのに皆親分と稱した。張勳が戦争に敗れてから其軍隊を改編しようとしたが、兵卒は張勳の外の人の命令は一切かないと云ふので持て餘したことがある。この親分乾分關係は親分あるを知つて國家も民衆も知らないのだから、支那には國家民衆の軍隊は無くて、蔣介石や

馮玉祥や閻錫山等の軍隊が存在して居るに過ぎない。支那が内争を繰返して居る原因もそこに

ある。安徵派や直隸派等云ふのも、一の郷土團體ではあるが、同様に親分乾分による結合である。直隸派では曹錕を親分とし、安徵派では段祺瑞を親分とし、段個人の信望を唯一の身上として、何んとかして段を擁ぎ出して其御招待をしようとするが、段個人に對しては故意を拂つて居る選中も、周圍の取巻き連を纏つて居るため、段の出馬は難しい。安徵派が段派と稱せらるゝのはかうした關係による。

親分乾分の關係は政界や軍隊だけでなく、社會の各方面に及んで居る。土匪の仲間等も親分乾分の關係は能く出来て居る。土匪が掠奪等に出掛け、或る乾分の居村の附近を通る場合には、幾らかの金と掠奪した馬位を手土産に持たしてやる。馬は尻尾短くして一寸形を變へ明けの日に使つて居ると云ふ有様で、中々人情味がある。土匪團の編成は各小親分が部下を率ゐて大親分の所に集つて来たまゝだから、人數の多いものもあり少いのもあり、甚だしく不揃になつて居る。労働者の苦力帮にも頭目があつて、多少親分乾分式の所があり、頭目は苦力の毎日の賃銀から若

階級の流動性

干引するが、其代りに仕事が無いとか、或は病氣したり負傷したりした場合に、食費治療代を出すし、死じた場合には葬儀の費用まで負擔する。手工業の方面ではこれが師弟の關係となり師匠を師と呼び、弟子を徒弟と云ふ。親分乾分も新しい支那に取つては一つの荷厄介である。

王侯將相何ぞ種あらんやとは支那の古人が云つた言葉だが、支那人にはかうした氣持が充分にある。門閥を餘り無視せず、腕次第で何處までも行ける所は支那の特長である。漢の高祖は田舎の亭長をして居た男だし、清朝の先祖は井戸掘りをして居たと云ふし、皆下機から身を起して帝位に登つて居る。

最近の支那を眺めても、大總統になつた直隸派の親玉曹錕は反物の行商人だつたし、閻錫山の親父は田舎代言人で閻自身は八百屋の小僧をやつて居た。蔣介石は一時取引所の仲買人をやり失敗して浙江財閥の首領虞洽卿に尻拭ひをして貰つた上に旅費を與へられ探文の所に轉ひ込んだのが出世の始まりである。張作霖が馬賊上りであつたことは世間周知の事實であり、同じ緑林

出身には大廣西主義を振り廻して孫文を虐めた廣西派の首領陸榮廷が居る。今は江蘇省の大地主で納まつて居る。かうして數へ上げたら幾らもあるだらう。これを日本歴史で豊臣秀吉が匹夫から身を起して異例とされて居るのと比較して甚だしき相違がある。

支那にはかうして上下層の轉換が甚だしいから、外國のやうな固定した貴族階級と云ふものが存在しない。即ち階級が著しく流動性を帯びて居て、本人の出身や素性等は餘り問題にせず、現在の地位勢力に重きを置く現實主義者である。この點では支那の社會は餘程副運が利くやうに出来て居る。それだけ又新陳代謝が烈しく、今日高位にある人も明日は没落し、一介の書生が忽ちにして天下の權を握る。有爲轉變の烈しいことは目まぐるしい程である。支那人はこの方面には徹底して居るから、自分の後輩が一舉に偉くなれば濟して其輩下に附いて居るし、又一旦高位をから得た者も、形勢が變れば下級の職を執ることを辭さない。堂々たる大商人が一旦失敗して財産が零になれば、日本人ならば自殺したり世の中を隱遁したりするが、支那人は平氣で又無一文で一介の勞働者からやり直して行く勇氣は、とても日本人の眞似て出来ないことである。然し

#### 支那の眞相

#### 四〇

一方で軍閥が失敗した場合にも幾度も恢復運動を企つため、支那の混亂を長引かせる所は餘り有難くない。これは支那人の賭博を見ても分る。數年間粒々幸じて得た金を一夜に無くして支那は腕次第でもなるから、野心のある連中に取つては面白い所に相違ないが、それだけ罷り違へば單簡に首を本當にチヨ切らるゝ覺悟はして置かねばならぬ。

#### 誅求と中飽

支那人は官吏だけでなく、凡ゆる階級を通じて誅求を行ふやうに出来て居る。今日で云へば擧げてあつて、官吏は軍閥と共に數千年間搾取學を研究し、其繩索を極めて居る。二の例を擧げて見ると、朝廷の綱紀が弛んで來た場合、税率を密かに増加して人民から誅求したり、新税を設けたり、手数料を取つたり、或は故意に納稅通知證を遅らして配布して罰金を取つたり種々なことをやつて來たものである。それが民國後のやうな混亂期になると一層甚だしく、軍閥は勝手に稅局を設けて徵收を行ひ、或は軍用金を課し、或は數年後の租稅までも前取りする有様である。

田地の課税等無茶苦茶で、河南の或る縣では一年の收穫六元位の所に月に二元も税を取り、三元の收穫から十元を取り上げて農民には三元しか渡さなかつたり、厘金局が全國に一二萬もあつて國內を通過する貨物に課税したり、不換紙幣を濫發したり、紙幣の公債で金を捲き上げたつて國內を通過する貨物に課税したり、種々の方法を講じて居るが、最近になつて請求の方、家賃税と稱して借家賃を皆取上げたり、種々の方法を講じて居るが、最近になつて請求の方、法が一層綿密組織的になつた。以前には亂暴な請求もあつたが駆け目もあり、細部の貧民には及ばず、且つ妥協も利いたが、國民黨になつてから組織的な計畫の下に實行さるゝから、貧民と雖も免るゝものなく、且つ愚圖々々云へば反革命罪でやられるから、請求技術は一層進歩した。請求に關聯して支那には「中飽」と云ふ字がある。中飽と云ふのは途中で胡麻化すことで、官吏が人民からは金を取立てながら政府には送らず、途中で自分の懐に入れておくと、其方法は古くから行れて非常に進歩して居る。一例として地租に就いて見ると、地方官は毎年何處の地が陥没したとか、荒廢したとか、無主になつたとか報告して免稅地を増して行く。それが數百年も、それ以上もやつて居る間に非常に増えて來るが、これは上の方に税を送る方面の關係だけで、人民からは依然として徴收するので、人民の方は自分の田地が免稅地になつて居るかどうかが

知らない。この差だけが官吏の「中飽」になる。この差の多き地方に赴任する官吏は樂轉とされた。江蘇省の如きは其一つで、現在課稅地として國庫の收入になる分は全省耕地の三分の一に過ぎず、三分の二は表面無稅地になり官吏の懐に入つて居る。又饑饉があれば免稅税をやるが、それを一村のものを全縣にしたたり、程度を甚だしく酷くして途中で儲けるのである。列國が支那の饑饉に同情して出した金も、多くは災民の手に入らずに途中で消え失せる。かうした場合には多くの救濟委員會が急造されるが、これが中飽機關である。凡ての租税がかの調子だから、表面から見た支那人の租稅負擔額は少いが、實際は隣り重稅を然かも不均に課せられて居る。請求と中飽は鐵道從業員の間にも行はれて居る。貨物の等級や斤量を胡麻化して其差額を着服することは至る所で行はれて居るし、車掌は無切符乘客を見付けて料金を徴しそれを擧領する。機關手の方では棉花や胡麻を積んだ貨車を機關車の直後に繋ぐ、すると荷主の方では火が付いて焚えたら困るので繋ぎ塊へを請求する。そこで幾らか儲かる。かうして凡ての者が自分の權限を利用してより弱いものを請求する。その請求は慘酷の程度に

まで達し、日本人等ではとても忍びないことを平氣でやる。一例を擧げて見ると、山東省の兵亂と土匪と饑饉に追はれ、着のままで子供を賣り飛ばして滿洲に移住して来た流民を、ハルビンの支那旅館の連中が察引して自分の宿にゴチャ／＼詰め込み、船や汽車が出ないと云つては長く泊めて宿泊料を取り、其上に汽車や船の切符を買込んで置いて混雑でとても買へないのに乗じて高く賣り付ける。人の弱點に乘じて何まで之を搾り抜く所に其國民性の慥忍さがあり、同情を表する代りに之を搾らうとする。地主の小作人に對するもの同じで、小作料の取立て法等もかなり酷いものであり、殊にそれが極端に現はれて居るのは高利貸である。湖南の例に見ると月二割の利息は普通であつて、三ヶ月に十割、甚だしいのは月に五割と云ふのがある。弱者に對する誅求は官吏だけでなく、實に凡ゆる階級に遍在して居る支那人の通用性である。

對外問題でも支那人の誅求的本能は明かに現はれて居る。彼等の主張する不平等條約撤廢の叫びにも濃厚に之の傾向はある。彼等は第一に收入増加の目的を達する關稅自主に向つて突進し、他のものは第二次的のもとした。租界回收でも租界から甘い汗を搾るのが目的だから、第一に増稅を試み、次には公共事業を荒廢させて其金を着服し始めた。奉天の商埠地問題でも、奉天

城内は商埠地でないといふので城内に搬入さるゝ貨物に稅を課し、次にには商埠地に手を延ばして、でも通過稅を徵收し、最後には滿鐵附屬地にまで手を伸ばして来たが、城内を商埠地でないといふ日本人は住めない筈だが、さうした金にならない方面は問題にしない。彼等の利權回收は要するに金を搾ることを意味して居る。彼等の搾取方法は數千年來の洗練を経て居るため、外人はともた刀打は出来ない。彼等は外人が寶金を出して敷設してやつた鐵道を喰ひ潰し、鹽稅も分捕して列國の監督は壞れ、最後に残つた關稅管理に手を着け始めたが、結局之れも壞れて彼等の誅求本能を満足させることになるだらう。懲はつて支那に金を借した奴が馬鹿だと云ふことになる。

弱點の利用に巧

支那では「之の際一度風して又仰がず」と云つて居るが、實に其通りであつて、一度弱者の地位に立つたものは何處までも回んで行つて、反響して來ると云ふことはいから、支那人に一度弱點を示せば、いくらでも押して來る。それが日本人だと或る程度までは、じつと我慢して居

るが、愈々我慢出来なくなると猛然立つて反撃する。かうした日本人の性質が分らないから、日本が多少譲歩的態度に出ると好い氣になつてぐんぐ押し来る。こゝに日支關係の危機がある。

人の弱點を利用することの巧妙なのは支那人に及ぶものはない。家に使つて居るボーイにして、家の中に病人があるか何かで、今ボーイに逃げられては困ると云ふ時になると、嘘を呉れと云ひ出す。雇主の方では大事な時だから困るので引留める。そこで賃銀を増してやると云ふことになるが、始めから目的はそこにあるのだ。これを日支關係に見ると、日本は支那の市場が非常に大切だと云ふことを知つて居るから、何か事があると日貨排斥で脅し付けて自己の立場を有利に導かうとする。ロシアの革命亂に乗じてロシアの公使館領事館を廢し租界を回收し、領事裁判權を廢止し、東支鐵道の強力回收を企て終にロシアの反撃に遭つた。この支那人の弱點利用の性質は甚だ卑屈なる國民性を造り上げ、強い者には何處までも頭を下けるが、弱い者は何處までも壓へて行く、清朝が北京に入れば滿洲の官吏一人も起て反抗するものなく其節に驕き、明の皇帝は景山に縊死した。四億の民が數百萬人の滿人に三百年近くも黙つて治められて居たのだ。

### 洞ヶ峠の名人

其一度變ふるや滿人は遺族なきまでに漢人に征服されつゝある。日常の行動にも之の性格は現はれ、力の強い男には手を着けなくとも、女子供を第一に辱める。日本人のやうに弱い者慮めを不道徳視する國民とは全く反對である。排日でもあると第一に小學校の生徒が通行の途中で辱められ、婦人が買物や何かの途中侮辱さるゝ、其平等な品性は國際的に支那人の價値を甚だしく低下するものである。

日本では洞ヶ峠の日和見主義は甚だ嫌はれ、どちらか刺きりしなれば承知しないのだが、支那では洞ヶ峠の方が普通であつて、今の支那を冒険して見ても、何れか日和見主義者ならざるはなしである。其代表的なものには馮玉祥がある。彼れは戰場に兵は出すが戦はない。戦争の勝負が刺きりするまでは動かないのだから困る。

其最も大きな空居は第二奉直戰の時に直隸軍の山の手の方の大將として出陣し、獲返りを打つて北京を乗取り直隸派をして一敗地に塗れしめたことである。近頃では關錫山が馮のお株を奪ひ、



蔣と蔣の喧嘩に巧く洞ヶ峠を極め込んで、だん／＼勢力を擴張して来た。其他山東の陳調元と  
か、奉天の張學良とかこの類の男はざらにある。

癡返りと云ふことも日本では嫌はるゝが、勿論日本も政黨の連中は例外としての話だが、こ  
れは支那の方で支那の政黨と日本の政黨は六十歩五十歩の差だと云つて居るし、又實質的にも日  
本の政黨と支那の軍閥は同性質のものだからである。こゝで云ふのは純粹の日本人のことであ  
る。支那人の癡返りは朝食を食ふよりも至極簡單だと云ふよりも、始めから四方八方に綱を張つ  
て居るので、癡返りと云ふ程の事でもないかも知れない。

支那の政黨や軍閥は、凡ては利害關係による結合であつて、主義や政策による結合ではないか  
ら、自己の利益を中心として行動する。第二奉天直戰の時に私は親しく之を見て居たが、當時直隸  
派の將校が奉天軍の參謀に入り込んで居るかと思へば、直隸の各將領は奉天派に款を通じ、奉  
軍の指揮官も直隸と連絡し、故に通じて居ないのは御天の張作霖と吳佩孚位のものである。直  
隸の傳令が直隸の陣中を駆け廻つて居たし、又電報報等も自在に打つて居た。其時の山東督軍等は  
双方に味方して居たから、直隸でも反直派でも山東は自分のものだと思つて居た。かゝつてやつ

て居る當人から見れば敵の各軍が皆我れに通じて形勢甚だ有利なやうに見えるが、相手から見れ  
ば又同じやうに見える。

從つて一方からの觀測は當てにならず、實際に現はるゝまでは甚だ不確實である。かうした關  
係にあるから、形勢一度一方に有利に傾いたとすると、忽ち大勢がそこに歸着する。そこで支那  
では第一戰が非常に大事なものになる。且つ形勢の變化が激しいのは甚だめである。この頃にな  
つては之の癡返りもだん／＼墮落して来て、河南の雜軍等は癡返りを商賣にして一月の中に二度  
も三度も癡返るから、かなり宣ひ收入になる。蔣介石反對の運動が起ると蔣は金策して買収する。  
鎮まる。暫くすると又始まる。又買収する。

かうして蔣は軍閥に對する擄取金の分配係り見たやうなものになる。それで金が出来なくなる  
と倒され新しいものが出る。又同じ事を繰返す、舊派反蔣派觸じ来れば之れ同一物の兩面に過ぎ  
ない。

外國關係でも之の性格は現はれて居る。外國人はあれは親日派だとか親米派だとか能く云ふ  
が、それは甚だ當らないことで、彼等には一定の形はなく、親米が都合の好い時には親米になり、

自分に都合が悪くなれば親露でも親英にでも變る。親米排日派の或る巨頭の如きは、其の誠實に日本語の非常に巧い男を採用し、日本人側と絶えず連絡を取らして居た。これは日本と結ぶことが有利になつた場合には何時でも親日に早變りするためである。

馮玉祥がロシアと關係があつたのは、彼れの地盤が支那の西北で豊饒にロシアを控へ、其援助を受ける必要があつたからである。張作霖が親日派に見られたのは、彼れが東三省に居て日本軍の御機嫌を損つては何事も出来なかつたからである。もし馮玉祥が張作霖の位置に居たら安張り同じ事をやつただであらう。支那人を一つの型のものに決めてしまふのは間違ひである。

### 土匪討伐

支那には全國に土匪が數百萬人も散在し、其團體も大きいのは數千人、時に一二萬の大集團をなすことがあるので、土匪討伐は軍隊の一つの大事な仕事であるが、それが中々面白い。軍隊が増えるに却つて土匪が増えると言ふのは、土匪は武器が無くては商賣が出来ない。それを供給するのは軍隊であつて、軍隊が土匪討伐をやつて居る間に商賣をするのである。軍隊にして見れば、

土匪を討伐しても自分には何の利益もなく、下手にすれば大事な命を失はなければならぬ。それよりも土匪と妥協して金儲けした方が得であると考へる。

これは支那人の利己的な頭から考へれば當然のことである。或る軍隊が土匪討伐に行つて土匪が擄奪して居る隣の村まで行くと、使をやつて適當な時に逃けさせる。土匪は一通り擄奪が終つて引上げた後に、軍隊が這入つて来て、我々の力で土匪を討伐したのだからと言ふので村人に御馳走をさせ、上役には我軍吉慶團の結束土匪を撃退したと報告して褒美を貰ふ。土匪からは擄奪品の一部を献上させ、其代りに軍隊は護衛隊を遣はす。

かうして一度連絡が出来れば、その軍隊が行けば土匪は何時にも退却するから、あれは土匪討伐の名人だと云ふのでだんく出世する。實際支那人の頭の好いことには感心する外はない。時によると土匪が東に現はれば討伐隊は西へ行き、土匪が南へ移れば討伐隊は北に動くと言ふやうに走馬燈の如く廻ることがあり、又二重三重に包圍されて居るべき筈の土匪が、何時の間にか脱け出して居たりする。或る時は軍隊の宿所を土匪が夜襲したので軍隊は慌てて武器も弾薬も捨てて逃げて出した。程程と軍隊が歸つて見ると、武器は皆土匪に持つて行かれて居たが、其代りに

金や品物が置いてあつた。支那は中々上手な國民である。人民こそ好い面の皮で、土匪に掠奪された上に軍隊から擄らるゝ。支那人から見れば土匪も軍隊も同じもので、軍隊はまの官製の土匪とも云ふべきものだらう。

軍隊が戦争する時にも戦争よりも商賣が主で、戦争には不熱心な彼等も、戦争が終つて彼の武器の分捕りには夢中である。これ武器を分捕ればそれに應じて軍隊の数が増え、自分の勢力が擴大するからである。第二泰直戦で直軍が敗れた時に、或る軍隊は直ちに京奉線上に進出して直軍の退路を遮断し、之を殲滅させる筈のが、一刻千金の大切な時に中々出て来ない。だんく調へて見ると近所の敗兵の鐵砲を分捕りすることに夢中になつて居て戰機を失したのだと云ふことが分つた。

とかく支那人は中々實利主義に出来て居て、この方面では頭の好くして徹底したことは世界に類を見出し得ないだらう。

### 老人 國

國に年齢があるかどうかは難しい問題だが、もしあるとすれば支那は四千年の歴史を有つたか  
なりの老年である。これに比し米國は少年氣鋭の憤があり、人間は下等だが新趣味と活氣とは充  
分に備へて居る。然るに支那には何んとなく鬱積した氣分がある。或る人は支那の青年は何ん  
なく老人變つて居ると云つた。青年の癖に小しやまくれて居る。奉天の張學良等二十幾才の青  
年だからと馬鹿にして居た日本の老年選が皆玉玉に取られた。

とにかく支那の青年に接觸した感じは、青年らしい純真さに缺けて居て、支那人が皆有つて居  
る多面的な複雑性と虚飾と利己的な性格の萌芽が充分に醸されて居て、青年だが油断は出来ない  
と云ふ氣持ちを起させる。

或る人は支那は老齡であつて、自ら若返る方法はないから、たゞ周圍の國によつて刺戟され反  
射的に活氣を呈する外ない。外國に最も荒された五胡十六國の亂後に唐の燦然たる文明が咲き出  
でたやうに、外國の刺戟のない期間はずり續けて居るのだ。最近支那が活氣を呈して来たのは周  
圍の各國の刺戟によるものであるから、支那は成るべく廣く門戸を開放して外國と接觸すること  
により活氣を呈し新文化を起し得るだらうと云つた。これも一つの見方である。支那最近の變化

は主として日本が興へた刺戟である。日露戦争は支那の憎恨を喚び醒す一つの警鐘となつた。次に日本に起つた種々の思想社會上の變化は支那に大なる反響を興へて其革新を促した。日本の外にロシアの影響も相當大なるものがある。支那の産業が發達したのも外國との接觸によること勿論である。

又或る人は云ふ。人間が一度老年に達すれば如何に若返り法を講じても駄目なやうに、國も一たび老年國になつては之に革新の氣を興へることは難しい。支那の革命も結局根本的に徹底し得ないのは老年國であるがため、ロシアは國が若いからあれだけやれたのだ。支那の革命はいくらやつても不徹底なものしか出來ないだらうと、これも亦一つの見方である。支那の從來の變り方は周圍の環境によることが大であるから、今後日本の革新がどう行はるゝかと云ふことが大きな問題だらう。

國と人間とを同一視すべきものかどうか、國は人と異つて絶えず新しく成り得るものかどうか、それは從來老妻の原因をなした老廢物を革命が完全に一掃し得るか否かにかゝり、支那が現に其試驗に上つて居る譯である。

## 外交篇

### 火元より遠方に

函谷關の道は山を切り割つて造つた凹道が長く續いて居るが、道幅が狭いために馬車が行き遠ふことが出來ない。そこで所々に待避所を設けて避けるやうになつて居るし、又先が遠くまで見えないから鈴を振つて向ふから來る馬車に警戒を興へる。所がどうかするとそれが巧く行かす道の狭い所で出會ふことがある。するといづれも後戻りして避けるのが嫌だから、お前が避けるお前が避けると云つた調子で相手に避けさせようとする。すると何時の間にか双方の後に馬車が大衆に重なつて來て、電車が故障で止つて居る後に數十臺も數百臺も重なつたやうな形になる。かうなれば愈々いづれの車も動けなくなり、始め二人の喧嘩が數十人又は數百人の集團の喧嘩になる。すると始めの二人の張本人は慍して煙草でも燻べて居る。其の後に居る連中が盛んに相

### 支那の真相

七四

の軍權、政權、財權等を獨占せんとするものである。現に南京政府の主要なる部分ば浙江人で固められて居る。又閻錫山が北支那の實權を握ると、張家口から北京、天津方面までだんく山西派で堅めかつた。かうしてお互に排斥し合ふから支那の混亂は絶えない。南方人と北方人との間にもこの感情は濃厚で、南方人は北方人を惡口するし、北方人は南方人を惡口するし、まるで敵國人に對するやうな態度を示すことがある。支那人は海外に出ても矢張り之の排斥をやる。南洋の華僑等でも各省人が排斥し合ふだけでなく、各省内でも省内各出身地毎に分れて排斥し合つて居る。日本の留學生の間でも彼等は出身地で團結して争闘することが少くない。然しかうして徒黨を造つて各排斥することは支那だけに限らず東洋人の連繫かも知れない。然し日本人は支那人のやうに甚だしくはない。支那人のかうした排他心は國內でも強く働いて居る位だから、外國人に對する場合にこれが發露するのは當然であつて、或は排日となり利權回復運動となる。義和團事件の如きもかうした支那人の性格から飛び出して來るのである。然し排外心は支那の交通が開け文化が進めば、だんく薄くなつて行くだらう。

### 門戸閉鎖と秘密結社

支那の家は周圍に高い壁を繞らし外から中々見えないやうにしてある。偉い人の家になると幾つもの門があつて、輿まで行くにはかなり遠い。私は北京で支那人の家を下宿して居たことがあるが、家には外圍の所に門があり、門は扉で鎖してあるから、外からは見えない。人が來れば繩を引く、すると鈴が鳴つて人と犬とが門の所に出て行く、門には外面を覗く穴があるからそれから覗いて見る。知つた人であれば開けて通す。親戚のものでも案内なしに家の中に這入り込むことは出来ない。隣との間には高い壁があるから隣にどんな人が居るか、幾人が居るか隣張りが分らぬ。たゞ話聲や隣りの騾きで長い間に隣りの状況が大體推察されるだけである。支那では「聽壁の外に漏るゝを厭ふ」から、家の中で起つた種々の醜態や罪惡は、皆家の中で仕まつて外に出さないやうにする。即ち家庭内が非常に門戸閉鎖的である。南方はさうでもないが、北支那では村落に行つても、一軒々々の家が厚い土塼か何かで圍まれ、其上に村の外圍が又土塼で圍まれて居る。

かうした閉鎖的な國民だから、經濟的にも各省に防壁令を施して各省の鞏固は他省に出さない。出すのは中々喧しいのである。自國內に種々の資源があつても、これを採査することを非常に嫌ふし、外國の調査隊等は種々の妨礙を受けて中々目的を達せられない。支那が外國に對して其國內を開放することも、決して喜んでやつた譯でなく、嫌がるのを外國が無理に開かせたのである。

従つて外國との貿易も長い間廣東だけでやつて居たのが、英國との阿片戦争で敗けて五港を開き、其後戦争で負けたり何れかして段々開港場が増え、沿岸や揚子江の如き内河まで開放させられたのである。然し今でも外人は租界内に居住を制限され、内地旅行には護照を持つて行かねばならず、租界撤廢内抽雜居にまでは未だ中々行き着かないだらうし、最近では却つて奥地から外人がだん／＼海岸の主要開港場に引上げつゝある有様である。支那が門戶開放的な政策に出るか、それとも門戶閉鎖的な政策に出るか、世界に取つても支那に取つても將來重大な問題である。もし支那が其内地を思つて切つて列國の前に開放するならば、支那は列國の刺激を受けて産業が大に發達し、資本主義的になり、列國の對支經濟活動は大に活氣を帯び、支那は世界的市場として益

々其價値を高めるだらうが、支那が門戶閉鎖的に出るならば状況は大に反する。然し支那の本質は門戶閉鎖的だから、支那が急速に全部開放されることは中々望まれない。

門戶閉鎖的の支那は必然的に秘密的でもある。支那には昔から秘密結社が能く發達して居る。時には全國に亘り數十萬人の會員を擁する秘密結社が長い間存在して居たことがある。青幫、紅幫の如きは其代表的なものだとも云へる。民國革命も秘密結社の援助で出来た。天地會、哥老會の如きこれである。現在でも支那革命の裏面には依然として幾多の秘密結社が動いて居る。それだけでなく、凡ての政黨や勞働組合の如きも秘密結社の的の傾向を帯びて居る。國民黨の母體である中國同盟會が既に秘密結社であつたし、國民黨が天下を取るまでは、國民黨は公開的のものであつたに拘らず實は秘密結社的のもので、事務所の如きも所在判然せず、凡ての行動が秘密であつた。又勞働組合にしても入口に看板はあるが、中に入つて行くところ何處に事務所があるかさつばり分らず、事務所には小使が留守して居るだけで、役員は毎日場所を變へて方々で會議を開いて居た。共產黨が秘密結社の形式を採つたことは勿論だが、共產黨が四五萬の會員を擁して秘密結社を取り得たのは、支那人が昔から秘密組織に慣れて居たからである。支那に秘密結社が發達し

### 支那の真相

た原因は次の三點にあるやうに思はれる。

第一は支那人の性質が秘密保持に適して居ること。

第二は支那の家屋の構造が閉鎖的で秘密會合に便すること。

第三には支那の警察が有名無實で官憲の眼を逃れ得ることである。

支那人は日本人見たやうに秘密を容易に明かさない。日本人は開放的だから次に喋つて

すぐに擴がつてしまふ。支那人は秘密を保持する性質を有つて居るだけでなく、その秘密保持の

方法が非常に進歩して居る。紅都や青都に用ひられて居る秘密保持の二の例を舉げて見ると、

日本では赤穂義士の討入りに「山」と「川」の言葉を用ひたが、支那にも失張りの言葉がある

が、それは二字づつ合せて四字になつて居る。その外に長い問答がある。例へば「お前は何處か

ら来たか」と聞くと「海から来た」と答へる。次に、「海には灣が幾つあるか」と聞くと「幾つ

ある」と答へる。かうした種類の問答を長く續けるから、仲間外の者が一寸立聞きした位では中

々儲えられない。所が之の問答で終ひでなく、最後に會員の體を示すことになつて居る。其他

始めに茶碗の置き方や配列で分るやうにしてあるし、茶碗と茶瓶とを配合して教授を求める等の

記號を現はすものもある。又帯の垂れ方とか、入つて来た時の冠り物の掛り方等で會員たることを示すだけでなく、更に其等級をも現はすことがある。かうした方法は昔から能く發達して居るのである。今後も秘密結社の問題は支那を見る場合に忘るゝことの出来ないものである。

めと同じ地味な生活を続け、小さい家に住んで居ることである。これが日本人だと少し金が出来たら、門戸を張り警備を始め、嫡や子供に綺麗な着物を着せて物見遊山等に出掛けるが、支那人は終始一貫變る所がない。支那人の行き方は階段を昇るやうに、一歩々々確實に進んで行くから無資未で大成功を収め得る。日本人が滿洲で支那人に追はれて退却するのは極めて當然である。支那人は下から上へ昇つて行くのに、日本人は一攫千金を夢見て始めから上の方に飛び付くから踏み外して轉け落ちることになる。世界中何處に行つても濡れ手に粟を攫びやうな好い事は無い。それで量面自任事はやれず、結局モト賣りかストル賣りをやり、支那人に殺されたりして野垂れ死にすることになる。この點は支那人の特長であつて、政府の獎勵も何も無いのに一千万人も海外に發展してそれぐ成功して居る所以である。

### 安價な生活

支那人の強味は其安價な生活にある。一つは物價が安いからでもあるが、とにかく彼等の生活は甚だ簡單であつて且つ勞苦に堪へる。嘗て山海關の戦ひの時に、もう十一月になつて薄氷が張

りかゝつて居たが、彼等は山の上的の寒い所に夏服を着て戦つて居た。又食物は一回に小さい饅頭を三つつやれば、それで一月でも一月でも戦するのだから面白い。彼等の衣食住たるや極めて簡單にして、着物は青色の綿服が主で、一枚あれば三年位着るから、日本人の着道樂に較べたら、日本人一人と支那人十人の消費量が同じやうなものだらう。中流の連中で五百圓もするやうな高價なのを着たものもある。高いのは着物の裏の毛皮だが、こゝなのは表は破れば取換へるし、子から孫の代まで三代位着られるから、贅澤なやうで却て安いものだ云つて居る。支那人は中々頭が好い。夜長は餛飩蒲團に敷蒲團がなく丸く相餅見やうに巻かつて居るので、日本人のやうに巾を取らない。鹽一枚に一人は樂に寝られる。支那人のホーノ部屋等に行つて見ると、日本の四疊敷位の所に五六人位は寝て居る。これだから住宅問題は極めて簡單である。職工等は機械の下にでも何處にでも轉がつて居るから別に嫌室の必要はない。支那人は夜寝る時は丸裸で身に寸線を纏はない。これは北方人に甚だし、男も女も同じである。第二奉直戰の時に馮玉祥軍が獲つて北京城内に入込んだのは早朝であつた。直隸側で最も惡まれて居たのは大總統の秘書長某であつたから、兵隊が直ちに其邸宅に踏み込んだが、某は妾と一緒に寝て居る所に



潤の地方もある。それに昔から凡ゆる虐政に慣れて居るから、如何なる氣候風土の所にも、如何なる政治の下にても利のある所には平気で發展して行く。寒帯から熱帯に至るまで支那人の住めない地方はない。

凡そ今の世界に支那人位深刻な侵略主義者はない。歐米の侵略主義は他民族を統治し或は擧取するか、一方では産業を起して住民に食を興へる。且つ侵略が表面的だから、或る時期が到つて、住民の生活を根本から奪ひ、これを絶滅せしむるものである。支那人の侵略は既に周代に發し、數千年の間に今日の如き龐大なる國と四億の民衆にまで生長したのである。

支那人の最も苦手とする所は共產主義や社會主義であり、營利と擧取を非認することである。滿鐵では廣範圍の購買組合が出来たため、日本の小賣商も困つたが支那小賣商人が路を込めなかつた。もし南洋にでも何かかうした組織が出来れば支那人のため南洋土人が擧取さるゝこととは無くなるだらう。又支那人は大規模の集中的な企業には不向きであつて、支那人の造つて居るのは小さなものゝ聯合した形である。日本の三井や三菱の代りに、支那には浙江財閥と廣東財

健全な發展振り

關と云つたやうな聯合體が存在する。從て企業でもかうした支那人の性質に合したものは能く發展して行くのである。

日本ならば天棒一つで擧げ出したと云ふ所だが、支那では襷から仕上げるには蒲團一つ擧いで出掛ける。前にも書いたやうに、支那人の夜具は極く輕いものだから、夜具を丸く卷き、其中に一切の世帯道具を入れて擧いで行く、金財産を輕々と肩に擧いで行く位だから、まあ日本で云へば着のみの儘と云ふ形である。南洋華僑、即ち南洋出稼人の間には今日數千萬の富を擧げて居るものもあるが、彼等も始めは蒲團を擧いで渡つて來た連中である。支那人が何處に行つても發展するのは、その進み方が甚だ堅實だからである。彼等は先づ無一文の勞働者から始め、毎日コツコツ稼いだ金の幾分を貯蓄し、幾年かの後、それを資本に今度は小賣商を始め、小賣商人でだんく儲けて行けば、或は土地を買込んだり、少さい工場を造つたり、又は卸賣商になるとか次第に發展して行く。所がこゝで支那人の性格が能く現はれるのは、彼等は金が貯つても如